

善養寺便り

第四号

平成二十七年二月号 発行 善養寺

二月のことば

念仏は苦悩を 避けるのではなく
乗り越える力

(光山道漣)

寒かった一月が早くも終わりました。一月はいく、二月はにげる、三月はさる、の言葉通り毎日が本当に早く過ぎてゆきます。冬来たりなば春遠からじ。春はまもなくやってきます。皆様におかれましては、風邪などお召しではないでしょうか。インフルエンザが今年も流行っています。どうかお気をつけください。

さて、私どもは日頃からお念仏を称えています。何十回も何百回もお念仏を称える中で、時にはややもすれば自分の願いや望みのたぐいを思い浮かべることがあるかもしれません。いえ、念仏にそれこそ「祈る」「願う」思いを抱いてお念仏を称えることは十分あり得ることでありましょう。それは私ども煩惱具足の凡夫の浅はかな考えだと言えます。私たちは何事も自分中心に考え、自分にとって都合のよいように物事が進んでほしいと思う存在です。そんな私たちに、もっと大きな力を与えてくださるのが南無阿弥陀仏です。どんなに慎重に行動をし

のちの歌(「だんだん」より)

3 「麦の唄」(「マッサン」より)

一、 献杯 あいさつ 河野哲夫様

閉会 あいさつ 坪田一良様

◆平成二十六年年度善養寺仏教婦人会 第五回仏教講演会のご案内

三月四日(水) 午後一時半より

「第五回仏教婦人会仏教講演会」

講師

安方哲爾先生

本願寺派布教使

貝塚市 正満寺住職

三月四日仏教婦人会の本年度最後の仏教講演会があります。ご講師は昨年もお願ひしました安方先生です。先生のお話は、前回大変好評でした。三月になれば幾分か寒さも和らぐことと思います。どうか、是非ともご聴聞にお越しく下さい。



ていても予期せぬことが起こり、どんなに苦勞しても報われなことがありません。そんな苦しみの向こうにお念仏の力があります。共に悲しみ、共に歩んで下さる大きな力があるのです。

がんたんえ

◆平成二十七年元旦会

今年は元日から雪かと心配していましたが、元旦会を無事皆さんとお勤めをすることができました。この日はたしか昼頃から粉雪が舞い始めたように思います。

今年の元旦会では、善養寺仏婦コーラスの指導者であり、地元でオペラ歌手として活躍の伊藤典芳先生よりかに、新年にふさわしい元気の出る三曲を歌っていただきました。先生の素晴らしい歌声でさわやかな新年を迎えることができました。また元旦会では、毎年「本願寺新聞」と大阪北御堂が発刊している冊子「御堂さん」その他心ばかりの新年のお品をお渡ししています。どうか皆さん、来年も「初詣は善養寺元旦会」からどうぞ！



元旦会次第 九時から

一、 読経 正信偈 現世利益和讃

一、 挨拶 善養寺役員 北野実様

(県会議員)

住職、前任職

一、 歌唱披露 伊藤典芳先生

1 「レット・イット・ゴー」

(「アナと雪の女王」より)

2 「い

◆第四回仏教講演会について

第四回は谷川先生の正信偈講義の最終回のお話でした。

「正信偈」の最後の方に「本師源空明佛教」という句がありますが、今回はこの句のお話を中心でした。

「本師源空明佛教」の「源空」とは、浄土宗の開祖法然上人のことで、(お聞きの方は覚えておいてですね)「本師」というのは尊称です。その法然上人が、「凡人が浄土往生するには南無阿弥陀仏の念仏しかない、念仏を称えるこそが仏教である」と明らかにされた」という意味です。

法然上人は「選択本願念仏集」という書物を著され、その冒頭で「南無阿弥陀仏 往生の業は念仏を本と為す。」と述べておられます。つまり、お念仏こそ、お浄土に往生できる本願と述べてあります。「選択」は「せんじやく」と読み、数ある仏教の教えの中から、念仏を「選択」したという意味なのです。「歎異抄」の一節に、親鸞聖人のことばとして、次のような有名なことばがあります。

「たとひ法然聖人にすかされまゐらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからず候ふ。」



(たとえ法然上人にだまされ申して地獄に墮ちることになるとも、けつして後悔はしません。)(「歎異抄第二章」)

法然上人は百巻あるという「一切経」を生涯で三度も読んだというほどの勉強家でした。その中から「念仏」の教えを選ばれ、浄土宗の独立を宣言されたのです。親鸞聖人は比叡山を下り、六角堂で夢告を受けた後、法然上人の弟子となるのです。

「正信偈」には、「釈迦如来楞伽山」以下、浄土真宗の教えにつながる七高僧が順番に登場し、法然上人はその七番目です。そして「正信偈」は最後に「唯可信斯高僧説」(ただこの高僧の説を信ずべし)という言葉で結ばれているのです。

「正信偈」百二十句には、浄土真宗のエッセンスが込められています。「帰命無量・・・」と称えるとき、私たちはおみのりをいただいていることになるのです。

◆十二月二十一日(日) 午前十時～十一時

「納骨堂一斉大掃除」

暮れの十二月二十一日に納骨堂の掃除をしました。各お家の納骨壇だけでなく、納骨堂全体の掃除をしていただきました。掃除終了後、温かい小豆がゆを皆でいただきました。



本堂再建の記述あり(文化六年一八〇九)

※一八〇〇年代に本堂再建とあります。最初の建立より約百年ほど経っています。一七〇〇年代の水害の影響もあったようです。

「彼岸会」のご案内

三月二十一日(土)

善養寺墓苑 午前十時より

三月二十一日(土)は春分の日であり、彼岸の中日にあたります。例年通り、善養寺墓苑にて、彼岸会の法要を勤めます。墓苑にご縁のある方は是非お参りください。彼岸の中日は太陽が真東から昇り、真西に沈みます。京都の東西を貫いている七条通では、通りの真正面の山の端に日が沈むということです。

◆二十七年度当初のご案内

四月二十一日(火)・二十二日(水)

「永代経法要」

法話ご講師 清岡隆文先生

五月二十六日(火)

「仏教婦人会総会」

法話ご講師 谷川弘顕先生

ゲスト 藤野ひろ子さん(歌)

◆過去帳に見るヒストリー・オブ・善養寺③

江戸時代は日本中の寺院にとって大きな転換期となった。それは幕府による「寺檀制度」の制定である。この制度はそもそもキリシタン禁制から出てきた制度である。この時代、善養寺も住職と門信徒の尽力により本堂内外の整備を進めたが、本堂を再建するなど困難が続いたようである。

六世住職 龍谷院釋慶存法師(享保十三年 一七二八没)

坊守 ワキ(河内の庄? 出身)

「右住職本堂建立之人也」の記述あり。この住職の時代に新しく本堂が建立されたものと思われる。

七世 善空院釋素吟法師(享保十四年 一七二九没)

坊守?

八世 東対院釋問龍法師(宝暦四年 一七五四没)

坊守ヒデ(六世慶存娘)

問龍法師は竜野揖西郡から入寺

寛延二年(一七四九)七月「大水」の記録あり

九世 樹谷院釋問慶法師

坊守子工(損保郡市場村出身)

廊下、山門? 建立(宝暦十一年)

十世 善龍院釋問瑞法師(安永二年 一七七三没)

坊守 俗名不明 (赤穂郡の寺院出身)

十一世 天正院釋問空法師(文化五年 一八〇八没)

「此住職清僧」の記述あり(生涯独身?)

十二世 清風院釋芳秀法師(文政十年 一八一九没)

坊守三工(大市中村出身)

蓮如様ご絵像入仏(門信徒より)

◆連絡、ニュースなど

★善養寺ホームページ作成中

元旦会で申しましたが、現在当山のホームページを作成中です。基本仕様は業者で作成してくれますが、後は自作する契約ですので、インターネット上に正式アップをするまでにはまだ若干時間がかかります。

ホームページは、誰でも見ることが出来るので、当然のことですが、作成は慎重にならざるを得ません。発信する文言の一語一語に作成者は責任を持たなければなりません。

また、少しでもよいホームページにするためには、写真の掲載が重要になってきます。今後、行事のたびに写真を撮って、それを掲載していかなくてはなりません。写真の撮り方、載せ方等いろいろ細かい点でクリアしていくべき問題点もあります。ともかく、やり始めたことですので、三月公開を目標に現在作成中です。門信徒の皆様のご協力とご理解をお願いします。また、なにぶん素人仕事ですので、過度のご期待だけはなさらないよう(笑)お願いします。

なお、もし行事の写真撮影をやってやろうという方がおられましたらどうかお申し出、またはご紹介ください。

★当山三代目の仏教会長でいらつしやいました小野政子様(八代本町)が、昨年百歳になられました。お祝い申し上げます。おめでとございます。